

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」（第 10 回）議事概要について

1．専門調査会の概要

- 日 時 : 平成 18 年 3 月 12 日（月） 14:00～16:10
場 所 : 全国都市会館 3 階第 1 会議室
出席者 : 伊藤座長、池谷、尾田、北原、寒川、清水、首藤、鈴木、
関沢、武村、溝上の各委員、安藤、安田の各小委員会委員、
増田内閣府政策統括官(防災担当)、丸山内閣府大臣官房審議官 他

2．議事概要

小委員会における検討経過等について北原委員（小委員会座長）他から報告した後、「1944 東南海地震・1945 三河地震」及び「1847 善光寺地震」に関する報告書案について各分科会の主査から説明を行い、各委員からは以下のような意見等が出された。なお、詳細な議事録については、後日各委員の確認を経た後に公表する。

小委員会における検討経過等について

「1923 関東大震災 - 第 2 編 - 」について、大規模災害の応急活動期における様々な問題について、海外の、例えば 1906 サンフランシスコ大地震などとの比較を行うとよい。

「1959 伊勢湾台風」について、災害後の土地利用を含め、復興過程についても内容を充実するとよい。また、災害現場への教訓として、流木を出してはならないということを改めて訴えるべきである。

報告書案について

< 「1944 東南海地震・1945 三河地震」 >

被災体験等の聞き取り情報をイラストに残したことは評価できる。災害情報が少ない中大変貴重な情報である。当時の米軍の空撮写真があれば活用できるとよい。

被災者が 1,000 人を超える過去の大規模地震の内、被災時刻が授業及び勤務時間中であったものとしては最新のものであり、その意味で学校における防災活動等の啓発資料として大いに活用されるべきである。

世界で初めての津波による石油タンク被害について記述するとよい。

震度データは住宅被害により算出していることを明確にするとよい。

< 「1847 善光寺地震」 >

新潟県中越地震との対比について、天然ダム同様に、初期消火や避難誘導などについてもコラム等で触れるとよい。

絵馬や石造物などについて、前近代的、非科学的だが死者を鎮魂する意味を持つなど日本特有の情報伝承であり、心のケアといった視点から評価される資料である。

火災について、火災と倒壊の被害の差や動態を図示できるとよい。

今後とりまとめる災害について

今後とりまとめる災害について、事務局から下記の候補が示され、了承された。

- ・ 1923 関東大震災（第 2 編・第 3 編）
- ・ 1858 飛越地震
- ・ 1960 チリ地震津波
- ・ 1947 カスリーン台風

< 問い合わせ先 >

内閣府政策統括官（防災担当）付
災害予防担当 企画官 荒木 潤一郎
同 主 査 山腰 裕一
TEL : 03-3501-6996（直通）